

---

# World Creator Online

野菜 イサヤ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

World Creator Online

### 【Nコード】

N7954Z

### 【作者名】

野菜 イサヤ

### 【あらすじ】

日本で4人に1人がプレイしていると言われている巨大オンラインゲーム『ワールドクリエイターオンライン』。そんなある日、その巨大オンラインゲームの特別イベントに選ばれた選ばれたプレイヤー達がワールドクリエイターオンラインの世界に飛ばされた。

帰る方法は？ なぜ自分達は呼ばれたのか？ これはデスゲームなのか？

そんな何一つ理解不能なまま、ゲームプレイヤー達は元の世界へ帰るため武器を取るのだった。

## 1 始まりの広場（前書き）

文章能力に自信がありませんが、それでも頑張って連載を続けていこうと思います。

誤字・脱字は言っていただけだと嬉しいです。

## 1 始まりの広場

意識を失っていたわけでも、ボーっとしていたわけでもない。

しかし少年が気付いた時には、彼の視界には見たこともないような美しい街並みが広がっていた。

茶色いレンガタイルの地面に、街のイメージを壊すことなくそびえ立つ綺麗な家々。

そしてそんな美しい街に集められた人々。

物音ひとつしない街には今、人々の悲鳴、動揺、怒りが飛び交っていた。

怒りを鎮める宛てがない者は、怒りに任せて他人を傷つけ、状況を理解できない者はただその場に座り込むことしかできない。

無論、少年もその中の一人にカウントしてもいいだろう。

しかし、少年は今置かれている状況を理解しようとせず、ただ無心に悲鳴をあげる人々を黙って眺めていた。

少年は自分の体をふと確認してみる。

そこには少年がさっきまで来ていた黒を基調とした寝巻ではなく、いつの間になら青黒い服に着替えさせられ、背中に長刀、腰に短刀を携えていた。

(……コスプレ?)

少年は首を傾げながらも腰に携えていた短刀を引き抜いてみる。

そして重すぎもせず、軽すぎもしない丁度良い重さをした短刀をひゅんひゅんと軽く振ってみる。

「おおいつ、危ねえな!」

短刀を振っていると横に立っていた人に怒られ、少年は「はは、

すいません」と軽く謝り、短刀を再び自分の腰へと収めた。

短刀を腰へ収めたところで、少年はようやく自分が置かれた状況を理解してみようと周りの様子を観察してみる。

どうやらここにいる人達は少年同様、自分がなぜここにいるのかわかっていないらしい。

「ここはどこだよ！ 誰か知ってる奴いねーのか！？」

「な、何なんだよ。まさか……俺って誘拐されたのか？」

「ちよっと、これ私が着ていた服じゃないじゃない！ あの服お気に入りだったんだから返さないよ！」

しかし、惨めで情けない怒りに満ちた人々の悲鳴は、無残にも空へ消えていくだけだった。

(……………)

少年はもうとつくの昔に気づいているのかもしれない。

綺麗に磨かれた茶色のレンガタイル。そして先ほどから悠然と佇む大きな円型噴水。

少年には確かではないが心当たりがあった。

恐らくここは。

『ワールドクリエイター・オンラインの世界へようこそ』

突然の声。突然耳に届いた機械染みた声は、少年だけではないらしく、周りにいた人々も少年と同じように突然の声に反応し、辺りを見回した。

しかし、声の主らしきものは何一つ見当たらない。

少年の視界には辺りをきよろきよろ物色している人々しか捉えることができなかった。

そしてどこからともなく聞こえてきた謎の声は、それでも言葉を続けた。

『この度はイベントの参加誠にありがとうございます。イベント参加者は多数おりましたので、申し訳ないのですがイベント参加者は条件を達成された方のみという形で決定することにいたしました』  
「イベント……？ 条件……？」

少年はそのイベントというものに心当たりがあった。  
ついさっきまで少年はとあるオンラインゲームをプレイしていたのだ。内容はただのMMOと変わらない普通なものだった。  
そしてそのゲームから一通のメールが届いたのだ。

『この度ワールドクリエイター・オンラインでは新たな技術へ向け、新しいステージ、キャラクタースキル、そしてゲームシステムを作り上げることが決定致しました。そしてユーザーの皆様にはお手数ですがしばらくの間、こちらが用意した特別イベントへの参加をしていただくことになります。つきましては』  
『

最初このメールを見た時、少年はゲーム運営の意図をすぐに把握することができた。

つまり「新ステージなどを追加させるため、このゲームはしばらくの間メンテナンスとしてプレイすることができない。その代り運営が用意したイベントで暇を潰してほしい」ということだろうと少年は予想した。

その時少年はなんの迷いもなくイベントへの参加を決意した。  
そしてそのゲーム          ワールドクリエイターオンラインの  
特別イベントが今ここで、謎の地で開催される。

少年はここがどこかという不明確な予想が、たった今確信へと変わった。

円型噴水に綺麗な街並み。間違いない。見間違えるはずもない。

ここは、ついさっきまで自分がプレイしていたオンラインゲーム、ワールドクリエイターオンラインの中なのだと。

ワールドクリエイター・オンライン。

名前の通り自分の理想の世界を作ることができる巨大オンラインゲームで、日本人の4人に1人がプレイしていると言われ世界中で慕われている大規模なオンラインゲームだ。

しかし、自分の理想の世界を作ることができるというのは嘘ではないが、実際問題不可能だと世間には呟かれている。

このワールドクリエイターオンラインはモンスターと戦う普通の戦闘ゲームというわけではなく、プレイヤー個人で様々なことをすることができる。

例えば普通にモンスターと戦うプレイヤーもいれば、武器を捨て商店を開き、他のプレイヤー達のサポートをするプレイヤーもいる。ベテランプレイヤーとなるとモンスター退治をしながら商店を開いている猛者までいる。

つまり何が言いたいかというと、このゲーム内では自分の理想のゲームプレイングができるということだ。

特殊アイテムがあれば空を飛ぶこともできれば水の中で長時間滞在することも可能だ。

ではなぜ理想の世界を作ることが不可能なのか。

理由は至って単純だ。日常生活同様、ゲーム内で何が起こるかわからないからだ。

モンスターをひたすら狩り続けている者は、HPがゼロヒットポイントになるとそれなりのペナルティ、代償が科せられてしまう。

また、一見安全だと思われる商店プレイヤー達もそういうわけにはいかない。

商店をモンスターに襲われればそこで終わりと言ってもいい。

商店を営むプレイヤーはモンスターに襲われても死ぬという心配性があまりないが、その代わり自分自身の全財産を失うことになってしまう。それが原因でこのワールドクリエイターオンラインを手放したユーザーもけっして少なくはない。

そして今、少年はそのワールドクリエイターオンラインの世界に立っている。

少年だけではない、イベントという言葉に誘惑されたプレイヤー達全員が今こうしてまるで夢のように、そして残酷なまでにその仮想世界の地に立っている。

「ふざけんな！ 何がイベントだ！ ここはどこだよ、これからバイトがあんだよ！」

「それ以前にここはどこ？ 家に帰れるの？」

謎の声

恐らくゲームのシステムアナウンスが発した言葉を含図に、人々の不安と怒りは一層強くなる。

しかし、システムアナウンスは臆することなく、はたまた聞こえていないのかそのまま言葉を続けた。

『今回の特別イベント目標は、『世界をリセットする』です。皆様のご武運をお祈りしています』

「はあ？ リセット？ 何言っただよ」

「そんな事はいいいからさっさと家に帰せ！ どこなんだよここは」  
「……………」



人々が不満をどこにいるかもわからないシステムアナウンスへとぶつける中、少年はひとり黙り込んでいた。

世界をリセットする。

ゲームを完全クリアしろということなのだろうか。それとも全モンスターを退治しろということなのか、少年は色々な仮説を立ててみるものの、さっぱりといった感じに、諦めて考えることを放棄することにした。

『尚、このイベントは目標を達成されるまではログアウトをすることができません。又、ここは仮想世界の中であり現実世界ではありません。しかし、仮想世界の肉体が《命を落とす》ということがあれば、ペナルティとして現実世界の《命》を支払うシステムとなっております』

「……は？」

少年は思わずどこにいるかもわからないシステムアナウンスに対し、俯いていた顔を空へと向けた。

『この特別イベントは新たな技術の試験運転も兼ねて行っております。皆様の体は今、肉体以外はこのワールドクリエイター・オンラインの世界へとダイブしていただいている状態となっております』  
「……ダイブ？ 肉体以外が、ダイブ？」

少年は無意識の内に自分の体をぱんぱんと叩いていた。しかし、普段通りの自分の肉体と何の違和感もない。

そんな中、少年の不安を無視するかのようにシステムアナウンスは言葉を続ける。

『このイベントは皆様平等にイベントを楽しんでもらうため、装備はそのままですがレベルを皆様平等にLv.5からスタートとさせ

ていただきます。また所持金は均等に3000ミルからのスタートです。では、5分後、イベントを開始します』

そういうと否やシステムアナウンスの声は消え失せ、少年やほかのプレイヤー達が集められている広場には恐ろしいほどの沈黙が訪れる。

これは夢なのか。

今のアナウンスはすべて事実なのか。

そもそもなぜ自分たちはゲームの世界にいるのか。ここは本当にゲームの世界なのか。誘拐されただけかもしれない。

ここは仮想世界で現実世界の自分は今、本当に仮想世界の自分が戻ってくるのを今か今かと待っているのか。

もしこの仮想世界とやらで命を落とすと、本当に現実世界の自分まで命を落としてしまうのか。

少年は自分の体が震えていることに気づき、必死に自分の体を両腕で包み込む。がたがたと小刻みに震え、そして泣きそうな顔になりながらも自分の意識を保とうとする。

周りの様子を窺うと自分と同じように体を震わせている者もいれば、未だに自分が置かれた状況を理解していない、または理解しようとしていない者達で静まり返っていた。

「ふ、ふふ、ふざけんな！」

突然広場に響き渡った怒号に、少年を含めた広場ほぼ全員が声の主を見やった。

そこには先程から罵声を放っていた男性が地団駄を踏んでいた。

「何おめえら黙り込んでんだよ！　こんなの運営のイタズラに決ま

ってんだろ！」

「……じ、じゃあ今のこの私たちの状況を説明してよ。なんで私たちは今ゲーム内のアバターの姿をしてるの？ どうしてそのイタズラでこんな知らない場所にまで連れてこられないといけないの？」

一人の女性がそういうと、男性は女性を一睨みし黙り込んだ。  
そして女性は口を再び開いた。

「このイベントって終わらせるためにはこのWCOをクリアしろってことだよね……」

その言葉を聞き、少年は声には出さなかったが心の中で「そうかもしれない」と呟いた。

少年はその他にも色々な考えを導き出していた。

しかし、ゲームをクリアするという考えしかまともな仮説が成り立たなかった。

そしてその《ゲームをクリアする》。これには一つだけ大きな問題があるのだ。

少年は目立つつもりはなかったが、少し遠慮がちで女性の発言に異議を唱えた。

「……そのゲームクリアって、どうやったらゲームクリアになるの？」

「そ、それは……」

このワールドクリエイターオンラインにはシナリオ等が存在しない。ただひたすら狩りをしたり物を買ったり、はたまたプレイヤー同士でコミュニケーションをとったりと、《暇な時に少しやる》をコンセプトに作られたゲームだ。

そんなゲームをどうクリアしろというのだろうか。

『それではこれよりワールドクリエイター・オンライン特別イベントを開始致します』

始まってしまった。

謎が何一つ解明されていない状況でこのイベントに呼ばれ、巻き込まれた約一万と五千人もプレイヤー達は、攻略の手掛かりが何一つないデスゲームに参加するはめになってしまった。

なぜこんなことになってしまったのか。

このイベントの参加条件とは何か、そしてなぜ少年は、プレイヤー達は選ばれたのか。

このイベントは本当にクリアすることができるのか。

少年は嫌なほど頭に浮かんでくる疑問符を振りほどき、まずは近く知り合いがいることを信じ、広場を散策することにした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7954z/>

---

World Creator Online

2011年12月25日16時52分発行